

安沢小学校読み聞かせボランティア

矢板市内の各小学校で、読み聞かせはかなり定着してきましたが、もう少し保護者に参加して欲しいというのが各校共通の課題です。そんな中で保護者が中心となって活動しているのが安沢小学校読み聞かせボランティア（代表岸田智子さん・会員10名）の皆さんです。月に1、2回の読み聞

かせのあと、本の話や読んだときの子どもたちの様子など、熱心に話し合われている姿に、お母さん達の意気込みが感じられました。活動に参加するきっかけをお聞きすると、開口一番「『入るよねー!』と仲間に脅されたから」という話に一同爆笑。さまざまな参加動機の中からもいくつか紹介します。

●母が読み聞かせしてくれた本の思い出

大きくなってその本に出合ったとき「この本だったんだー!」と嬉しかったのを覚えています。自分も子どもに本の読み聞かせをもっとしてあげたかったのになかなかできませんでしたが、下の子

が1年に入った事をきっかけに、罪ほろぼしのよくなつても始めました。自分の読んだ本で喜んでくれる事が嬉しくて続けています。読み聞かせに行っているつもりが、実は自分が一番喜びをもらっています。みんな素人ですから、身構えずに多くの皆さんに参加して欲しいです。



新しくきれいな図書室で

●私は親に本を読んでもらった記憶がありません

私も上の子には本を読まずに終わってしまいました。下の子になって周囲から本にまつわる情報が多く入るようになり、「本って大事なんだー!」という事に気づきました。アニメの時代に育った私はテレビを見る事が多く本を読むのはキツ

イでヘタ、「他人に本を読むなんて恐れ多い、ムリ!」と思っ

ていました。でも、友人に誘われて、今は絵本専門で参加しています。「この絵本キー」という絵から入る本選びをしています。おそらく自分が小さい頃に出合ったであろう本を読み直す新鮮さと楽しさでやっています。

●私は本嫌いの子でした

大人になって、もっと本を読んでおけば良かったと後悔しました。ですから、子どもには本を読む子になって欲しいと思ひ、幼稚園の頃から読み聞かせをしました。私が読書ボランティアをすれば本を読み続けてくれるのではと考え参加しましたが、今は活字を追うことで子どもと一緒に学んでいるような気がします。

★安沢小学校独自の取り組み

1、3年生、4、6年生がそれぞれ一緒にになって聞く「合同読み聞かせ」事前に熱心に練習し、音響効果をつけて盛り上げた。とても素晴らしかったと教職員からも高い評価をつけています。

Q&A

市内のすべての子どもが、自主的に読書活動ができるよう、家庭、地域、学校という社会全体でその環境を整備し、市民をはじめ関係団体等がともに協力しあいながら主体的な活動をしていくことが期待されています。矢板市の読書活動への取り組みを大森教育長にお聞きしました。

●矢板市子ども読書活動推進計画が今年から5年間で進められるということですが？

国民読書年ということ、それぞれの自治体は活動を計画的に進めていくために推進計画を立てることになりました。今までも読書の大切さを市民の皆さんに訴えてきましたが、あらためて市民運動として進めていければと考えています。重点的に取り上げているのは「家族で読書を推進していこう」ということです。具体的にはこれからです。この計画を作るに当たって図書館協議会・社会教育委員の皆さんと議論した中で、「家読（うちよみ）」を進めたいという要望が多かったのです。特に「学校で読書活動を推進しても、家庭

内でもそれが見えないと内面から読書に進んでいかない。日常的な読書が必要では？」という声です。

●なぜ、本を読むことが必要なのでしょう？

文章を読めないとい何事も始まりません。文章を読めるということは学習する上での基礎です。それだけでなく、文字、文章を読みイメージネーションを膨らませることはその子の感性・想像力を育みますが、それは、教育における本質だと思えます。人の話を聞ける、伝達できることは大切です。他人の痛みや感情を理解するなど、人間性の一歩大切な部分をほのぼのとさせ膨らませられる。

また、学校を離れ社会に出て生活し、自らいろいろなことを学ぶようになったときに必要な道具です。自分を成長させていくためには本が必要で、本がそうしてくれれます。

●ボランティアの重要性

この計画を作るに当たって、教育委員会で学校の読み聞かせの現場を見学しましたが、子どもたちの真剣なまなざしに、一同とても驚きました。読書ボランティアの活動が、小学校に入った子が本

に親しんでいくうえで大きな力になっていきます。先生が読むのではなくて、学校以外の人が読むのがいい。そして、読んだまま、聞いたままで、必ずしも感想文などを求めないのがいい。そういった、子どもたちに本に興味を持ってもらうような機会をもっと多く作っていきたくて考えられています。多くの人にボランティア参加して欲しいと思いますが、一部の人に負担をかけないよう、いろいろな人が参加できるようなきっかけづくりをしていきたいと思っています。

●市民の皆さんの心の財産を分け合ってほしい

どなたにでも、自分の人生において心に残っている本や言葉、人から受けた恩、自分の考え方、人生を進む上でのきっかけづくりになったものがあるはず。その大切にしていくことを、自分の家族や、地域の子どもたちに伝えていくことを意識して欲しい。その思いを伝えたり、思いを持ちながら地域の活動に参加していただければ、人に心が伝わったり、地域のコミュニティづくりの役に立つのではないのでしょうか？そんなふうに、心の財産を共有しましょう。